

編集室から

8月末、事故に遭いました。夕方、打ち合わせに向かう途中の大通りと小道での、車同士のいわゆる出会い頭でした。幸い双方とも速度は出ていませんでしたので、怪我は無く、大事に至らずに済みました。

どちらかが、歩行者や自転車、バイクだったら、間違い無く人身事故でしたし、本線を走行していたこちらの速度がもう少し出ていたら、周りの車両も巻き込んだ大事故になっていたかもしれません。

交通事故そのものは、決して喜ばしいことではありませんが、その中でも少なくともこの事実だけでも、有難く幸運な事です。

警察や保険会社、相手の方とのお話が全て済んだ後、何とか自力走行しながら、駐車場迄戻って来れました。相手の方は、かなり動転されていましたが、良い方とお見受けしました。

戻りながら、思った事、それは「この出来事はカードの裏表！この後キット素晴らしい事が起こるに違いない！」そう思うと、何だかウキウキ！としてくるから、不思議です。

実は、今年に入ってから何度か車両トラブルが続いていました。その度に少なからぬ修理代と手間。この車は大変気に入っているのもう10年近くご機嫌で乗り換えずにいました。ところが、若い頃「あの名車」に乗りたかったことをフト思い出していたのです。

ひょっとすると、今までのトラブルも「そろそろ乗り換えたら？」というサインだったのかも。気付かず乗り続けていたから、とうとう事故で示してくれたとしたら...なんて事まで妄想が暴走。(^^;ゞ...ツイてる人は困らないだけで無く、発想も転換できる人だと思います。

コトに際して自分の感情、言動を振り返ると、潜在意識下のマインドブロックが大分外れて来ているようで、それも嬉しいのです。(は)



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登の夜市」の姉妹店を開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

もちろん、川島さんご自身もお店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00～24:00

金曜17:00～28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2013/09

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2013/09

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

長 月



鳥取県三朝温泉にて
by hama

濱のつばやき 『心のブロック』

私たちが普段、心に思い描く意識を顕在意識（在る事が顕かになつてゐる意識）と呼ぶ。一方、その下に「気付かない意識」つまり潜在意識があることが、学術的に解明されて久しい。

ある研究によると、顕在意識はわずか四%ほどで、潜在意識は九十六%にも及ぶという。この関係を図解するのによく氷山の例えが使われる。水面上に見える氷山は、まさに一角で、その下には巨大な氷の塊が沈んでいて見えない。見えている部分が顕在意識、見えていない水面下の氷塊部分が潜在意識を表している。

この潜在意識の中に、無数の記憶と、それに伴う価値観（プログラム）が蓄えられている。慣れると車の運転がある程度無意識でできるのも、この仕組みのお蔭だ。

ところが、この記憶とプログラムは、生きていく上で全てが有効であり続けるとは限らない。特に起業など、新しい道を歩もうとするとき、志を実現させようとする時、これらがブロックとして働き、何故かやる気が湧かない・つい面倒になつてしまふなどという心の状況を作り出してしまふ。

このブロックの仕組みは、無意識の領域で働いているから、本人は理由がサツパリ判らない。何がなんだかわからないまま、頑張りが利かず目標を達成できないということを繰り返す。そのうち、全てが面倒になり、志や夢自体を諦めてしまふ。ひどい時は、諦めたことすら忘れてしまい、変わりたかつたはずの元の人生をまた、歩いている。

心理学的にはメンタルブロックという。否定的な考え、思い込みによる意識の壁、抑止・制止する思考のことでもある。

この心のブロックを、非常に端的に判り易く表現している例がある。某外資系の保険会社のTVのCM。ガチヨウがキャラクターになつている。最近のCMでは、黒いガチヨウが登場する。この黒い鳥が心のブロックそのものを表している。CMでは、街で拾つた黒い鳥が、女性に否定的な判断の横槍を入れている。

また、何故かこの黒い鳥を「街で拾つた」というのは、心のブロックが作られるときの重要な点の一つで、雑踏の交差点ですれ違つただけの人が、その瞬間に話していた言葉が、何故か耳に残り、それを抱えて無意識の内に自分のブロックにしてしまふということもある。まさにCMで黒い鳥を拾つてきてしまつたように。

我々は日常的にこのCMの女性のような状態にある。しかし、実際には黒い鳥が見えるわけではないので、そうとは気付かない。ある意味、自分の無意識の中の気付かないプログラムによって、自分の判断・感情が、気付かぬうちに多大な影響を受けているのであつて、本当は空恐ろしい事なのに。

このブロックが発見されて以来、さまざまなブロックの解除方法が試みられてきた。心理学だけで

なく、成功法則や、自己啓発系のセミナー・手法にはこのブロックを解除する技法を入れ込んでいる場合が少なくない。中にはブロックを解除する体系だった手法群として確立されたパッケージも登場するようになった。

ところが、無意識の領域ゆへの扱いづらさから、手法が複雑で習得が容易でなかったり、原因を探索する必要があることが少なくない。特に、ブロックが創られた原因を探つて、それに対処しようとする方法の場合、忘れていた原因が判つた瞬間に、改めてその原因を握り締めてしまい、ブロックを強化してしまう危険性もある。ブロックの原因探索は、諸刃の剣なのである。

二十七歳で社会計画に携わるべく起業した。ある程度の方向性が見え始めた三十歳過ぎ頃から、より本質的な「人々の幸福とは何か」を意識し始めた自分は、和洋を問わずこれまで様々な心・精神の問題を取り扱う世界に飛び込んできた。これも、今から振り返つてみれば、心のブロックになんとなく気付き、それを解除しようとして、もがいてきた道程なのかもしれない。

先の六月下旬、知人からの紹介で、ある会合に参加した。この席で元横浜市の教員であつた栗山さんと出逢う。教員として難しい現場に向き合いつつ、彼女も自身の心のブロックと格闘してきたという。教育・母親・妻の役も同時にこなしながらの探求の果てに、一つの方法にたどり着く。その有効性を周囲からも認められ、独自のアプローチを広めるべく、教員を退職。一般社団法人マインドブロックバスター協会を設立し、全国を飛び回つておられる。

この時、極めて短時間しかお目にかかれなかつたが、マインドブロックを解除して頂く体験の機会を頂いた。それは他の方法と比べるとあまりにもあつけない。しかし確実に解除されていた。今までの数々の模索は一体全体何だったんだ！という衝撃とともに、ブロックを解除するバスター養成講座の受講を決心。七月上旬に無事、資格を取得。以後、自分は勿論、ご縁に応じて数々の方のブロックを解除している。

栗山さんが口癖のように話しておられるが、マインドブロックを解除するのは、誰にでもできる。それは決して特殊な能力ではない。逆に、科学技術が先行する現代社会の中で忘れられてはいるが、潜在意識がそうであつたように、自らの内に元から持っていた能力だと思ふ。ある手順に従つと、その能力を思い出し発揮できるようになる。ただそれだけのことだ。

心のブロックが解除されていくと、コトがスムーズに運んだり、思わぬ出逢い・できごとが起きてくるから不思議だ。ただし、一度外したからといって、CMの黒い鳥のように、街で無用なブロックの種を拾わないう事肝心だ。

心のブロックを外し続けて、心身とも身軽な生き方へとシフトされる方が増えることを、切に願う。

借入金返済が滞った9月初旬から、翌年5月末の事業スポンサー決定まで、通常の融資は引き出せない状況にあった。官公庁からの受託業務が主であり、既に数億の受注を獲得していた当社にとっての最大の課題は、売上による入金が集まる新緑の時期までの運転資金を確保すること。実際、4月末日の5億超の入金で一息つくまでの8ヶ月間、資金繰りはまさに綱渡りであった。公租公課とアルバイト代の毎月10日、給与振込の25日、そして外注費等の月末払いに怯え、日次資金繰り表と睨み合う日々。資金ショートに陥らぬよう、例えば「11月7日に2千万」という形でパズルをはめる。この間、我々に資金を提供してくれた4者とともに。

“白いフェラーリ”が最初の資金提供者である。最もリスクの高い時期に貸してくれた恩人。しかしグレー。書けることはこれまでに全て書いた。いや、書き過ぎたかもしれない。

続いて資金を入れてくれたのはAMUという聞き慣れない投資事業組合。これについては次号以降に書く。

これと前後して、東京本店の某銀行から、同額の預金を担保に融資を受けた。当社にとって資金繰り上のメリットはゼロであり、むしろ少なくない利払い負担が発生しマイナスに働く。それでもこの取引を強行した理由は、「銀行等からの支援を受け…」という文章を、発注者からの信用回復に用いるためである。営業担当取締役による先方との膝詰めの交渉から得られた結論は、発注者から業務の継続が可能であると判断されるにはこの文言が必須ということである。“白いフェラーリ”やAMUという文言は、疑念を増すばかりだと。案の定、「銀行等…」はそれ以上の追求も受けずよく効き、結果として既受注業務のキャンセルという致命的な事態は避けられた。当初の目的が一定程度達成されるとともに、この銀行は当社にとって役目を終えた。

某金融サービスグループのバイアウトファンド¹とは、民事再生手続き開始前から接触を重ねていた。“白いフェラーリ”の正体を知りつつ、当社に主導権があるのか否かを慎重に見極めた上で、某銀行からの融資の約1ヶ月後に大きな額を入れてくれた。裏の情報も知り尽くした彼らが、事業スポンサーが入る前の最後の貸し手となった。売掛債権を担保にした数億のコミットメントライン²。これで、売上による入金までの資金繰りは格段に改善した。某銀行及び当該ファンドの名称は、書けないこともないが自粛したい。

1：企業の株式を既存株主から買収し、その企業価値を高めて第三者への転売等を通じて利益を得るファンド。当社にはこの枠組み（投資）での参加も模索したが、結果的に融資のみでの関わりとなった。

2：融資枠のこと。金利の他にコミットメントフィー（手数料）が発生するが、枠内で比較的自由に借入・返済が可能である。

暑い今年の夏も一段落してまいりました。と書いておきながら9月下旬まで残暑(?)が続くのでしょうか、この二日くらいは秋らしい日々の東京です。

さて今年もやっぱりテレビにくぎ付けになってしまいました。そう夏と言えば高校野球、甲子園です。まずは前橋育英の選手、監督、関係者の方々、そして群馬県民のみなさんおめでとうございました!!私も生きているうちにその歓喜に酔いたいものです。

甲子園の何がいいって、もちろん球児が夢中で白球を追いかける姿や将来のスター候補のプレイに嘆息をもらしたりと、高校野球というスポーツとしての醍醐味は多分にあるのですが、実は「甲子園」は僕のビジネスの根底にあるものなんですよね。

故郷にはすでに住んでいなくても、もっと言えばすでに故郷に肉親・親類関係がいなくても、その地域を代表して甲子園に出場したチームを愛し、心から応援する(してしまう)その光景こそ『今後の地域づくりの根底にある考え方』だと考えています。

- ・大学への進学
- ・就職

などにおいて、若者が地方から都会に出ていき、そのまま働き生活をしていくという流れは、今後も変わらないでしょう。もしかすると都市部における労働力ニーズの高まりや地域の大学淘汰等によってより加速化することも想定できます。

そのような環境下で『故郷』とつながり続けるには、高校野球でみられるような「都市部にいながら故郷を応援する」という基本概念がものすごく重要だと考えています。ふるさと納税といった関わり方もそうなのでしょうが

その地域の水産・農産物をたまには購入してみる

県人会やその地域出身者コミュニティ、郷土料理を出す飲食店に

たまには行ってみる(お待ちしております。)

というレベルから参加していくことが必要だと考えます。そこでまた出会いやきっかけがあったりするものです。

ただ現状課題としては、そこから次のステップであったり、より積極的に活動参加していくためのインフラやそれを支援する機能が脆弱であるということでしょう。

石川県だけでなく、この夏高校野球で盛り上がった熱い想いが冷めないうちに、行動に直結させてあげられるそんな受け皿のようなものをつくりたいですね。

『富士の国から ~大魔神のたび~』

~ 英国の旅 ~ 静岡県職員 溝口 久

「バラマーケット」ではパエリアとサンドウィッチをいただき、テムズ河畔の遊歩道をしばらく歩くと軍艦HMS ベルファスト号が停留している。第2次世界大戦、朝鮮戦争で使われ1965年に引退。現在は帝国戦争博物館の別館として入場料を払えば棧橋を渡って中に入ることができる。蠟人形などで当時の様子を再現しているとのこと。13ポンドの入場料は高い感があるが、ロンドンの美術博物館は大英博物館をはじめ無料がそこそこあるが、有料である場合は結構高い気がする。

岸側に目を向けるとガラス張りのアーケードがある。コの字型のプランの石造建築物を覆うようにガラス屋根が架けられている。ヘイズガレリアと言う。もともとはヘイズワーフという波止場で、主に紅茶などが荷揚げされていたが、陸上交通に替わり波止場はさびれてしまった。そこが1980~1990年代の再開発再び活気を取り戻すことになった。倉庫だった建物に飲食店などのテナントが入り、おしゃれな空間になっている。

ガレリアを構成する鉄骨は空間にメリハリを与え、人を引き寄せる魅力を生み出す一方、古い建物の存在感を損なうことがないよう慎重な配慮されている。柱は一本の単純な円柱ではなく何本かの細い柱を束ね細くスマートに見せている。ゴシック様式の石造柱にも見られるデザインだ。

古い建物を尊重しながら新たな価値を加えるそのバランスの巧さは、リノベーションが設計業務として多いヨーロッパならではかな。日本でもスクラップ&ビルドからリノベーションが普及する段階なので、本場の事例から学ぶべき点は多いと思う。



さらに河畔を進むとかの有名なタワーブリッジが見えてくる。かなり大きい。完成は1894年。大型船の運航を確保するために跳ね上げ式になっている。塔は2本建っているため橋全体は3スパン。そのうち跳ね上げ部分は中央の橋桁で、塔と陸地の間は吊り橋が架かっている。当時1日に50回も上がった橋も今では、多くて週3回ほどのこと。それに出くわすほどの運は小生にはなかった。

塔の高さは40mあり、左右にあるゴシック様式のタワー内部は展望通路・歴史博物館がある。塔のデザインは名前の由来ともなっている付近のロンドン塔の景観と調和するように配慮されている。

古典的な伝統と産業革命以降の新しい伝統、ふたつの伝統が見事に融合した産物であるタワーブリッジが、現役の産業遺産としてロンドンのど真ん中で生き続けていることが何より素晴らしい。

この日の夕食は、泊まるにはその値段の高さと宿泊客、非宿泊客を問わずホテル内の雰囲気を保つため、上着、ネクタイ着用を求められる窮屈さから宿泊を諦めたリッツロンドンだ。

ロンドンのグリーンパークを一望する地に建ち、魅力的な新古典主義様式の建物だ。1906年に開業し、数度に渡りオーナーが代わり1995年に現在の所有者である投資会社が8年間と4,000万ポンドをかけて改装を行った。英国政府観光庁が5つ星の認定をしている。宿泊は無理でも、せめて夕食だけでもと長女が予約を入れてくれた。Ritzレストランは美術品で装飾が施され、イングリッシュガーデンが開けていた。期待が高まると同時に緊張感も高まる。料理は現代風にアレンジしたクラシックな英国料理といったところ。(つづく)

